

調査報告書

令和5年5月19日

袖ヶ浦市議会議長 榎本 雅司 様

建設経済常任委員会
委員長 山口 進

会議規則第110条の規定による調査のため視察したところ、概要は下記のとおりでありますので報告いたします。

記

- 1 期 日 令和5年5月9日（火）～5月10日（水）
- 2 場所・目的
 - (1) 第1日 熊本県玉名市役所（熊本県玉名市）
「玉名市6次産業の取り組みについて」
 - (2) 第2日 五ヶ山クロス（福岡県那珂川市）
「五ヶ山クロスについて」
- 3 参加者 8名
(建設経済常任委員6人、執行部1人、事務局1人)
- 4 概 要 概要等は、別紙のとおり

視察先	熊本県玉名市	視察日	令和5年5月9日	参加者	建設経済常任委員会
目的	玉名市6次産業の取り組みについて				
報告事項					
<p>〈 玉名市6次産業推進の概要 〉</p> <p>地域経済の再建・活性化を図るために地域の基幹産業が連携を強化し、産業力の向上に取り組むとともに地域資源に付加価値を付けて地域加工品として磨き上げ、販路拡大に向けた取組を進めていくことが重要と考え、1次、2次、3次産業との連携をより強固なものとし、6次産業として発展していくための気運醸成を図り、地域における新産業の確立及び新たな加工品づくりに結びつく施策を進めることを目的として、平成23年から令和4年まで3期12年にわたって取り組んだ事業。</p> <p>〈 玉名市における6次産業の意味 〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 農林水産従事者の所得向上 売値を生産者が決めることができる 生産者のための事業 2. 生産者が販売まで手掛けることで、消費者のニーズを把握できる 生産物自体の磨き上げ 加工品とともにブランド化できる 3. 地域活性化を目指す 雇用拡大 <p>〈 推進体制 〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 6次産業活性化委員会 構成：学識経験者、有識者等 内容：6次産業化による地域活性化、市の計画や制度、補助金申請に関する審査など、6次産業育成のための支援体制の確立、6次産業推進施策のための適切なアドバイスを行う。 2. 玉名市6次産業先進地視察研修会 対象：市内6次産業従事者、新規参入を検討している事業者等 内容：6次産業先進地の事例研修、工場見学、意見交換会等。 3. 玉名市6次産業推進勉強会、個別相談会 対象：市内6次産業従事者、新規参入を検討している事業者等 内容：6次産業に関心のある事業者を集めた、6次産業化に取り組むための必要な知識を得る場。 					

〈 補助金制度 〉

1. 対象事業 ①本市の農林水産物を活かし、市場性が高く将来的に有望であると認められる事業
2. 補助金の対象経費 ①研究開発費 ②販路開拓費
3. 補助金額 補助金の額は、対象経費の 2 分の 1 以内の額とし、1 事業者当たり 30 万円を限度に予算 の範囲内で支援を行う。
12 年間の補助金実績 62 件 3,610 万円

〈 課題 〉

6 次産業事業自体の縮小

1. 6 次産業事業者の撤退
2. 6 次産業推奨品の廃盤
3. 個別相談会・勉強会・商談会の参加者の減少

新規事業者の参入

1. 情報網がない
2. 既存事業者との交流がない
3. 市の補助金が廃止

〈視察の感想〉

前市長の選挙公約から始まった 6 次産業化推進事業は、12 年間で 62 件の実績を上げた。玉名市の特産品であるトマト、イチゴ、ミカン、を使ったジュース、ジャム、ゼリー、ケチャップを中心に加工品が開発され、市内直売所等に販売されてきたが、家族経営による労力の不足や、販路拡大が思うように進まないことなどにより事業者の撤退、推奨品の廃盤が多くなっている状況である。

袖ヶ浦市においても 6 次化産業化の事業を数年前から展開してきたが、事業者が増えていないのが現状である。農業者が加工から販売までの工程を行うことは、非常にハードルが高いということが分かった、今後は地域の基幹産業である農業者と商工業者が協力し、互いの強みを活かして新商品の開発を行う道を選択することが今回の視察を通して必要と感じた。

【視察時写真】





視察先	福岡県那珂川市	視察日	令和5年5月10日	参加者	建設経済常任委員会
目的	五ヶ山クロスについて				
報告事項					
<p>〈 五ヶ山クロスの概要 〉</p> <p>福岡県と佐賀県の県境、那珂川市の最南端部に位置する五ヶ山ダム周辺において、「水と緑の中で人々が集い触れ合う」を基本コンセプトに、五ヶ山の豊かな自然を一望できる「ベース」や様々なキャンプニーズに応える「モンベル五ヶ山ベースキャンプ」、川遊びを楽しむことができる「リバーパーク」などを拠点として、キャンプや登山、トレッキング、山水プール、四季折々の植物を楽しむことができるグリーンピアなかがわをあわせ五ヶ山クロスという愛称を付けて平成31年3月に完成したアウトドアフィールドです。</p> <p>この施設は、福岡都市圏から車で1時間の距離に位置していることや、アウトドア業界のトップである株式会社モンベルとの提携で行った全国発のキャンプ場であり、きめ細かな工夫がなされ、利用者に好評を得ている。</p> <p>〈 利用状況 〉</p> <p>1. モンベル五ヶ山ベースキャンプ (60区画キャンプ)</p> <p>利用人数 令和3年度 34,207人 令和2年度 27,395人 令和元年度 25,165人</p> <p>売上高 約8,800万円 (令和3年度)</p> <p>稼働率 43.95%</p> <p>土曜日の利用は年間を通してほぼ満室</p> <p>利用者 福岡県内91.3% 九州内7.7% 九州外1%</p> <p>〈 現在の課題 〉</p> <p>1. 周遊性の向上 キャンプ場利用前後に立ち寄ることが少ない状況であり、来訪者に近隣施設へ立ち寄ってもらう工夫が必要。</p> <p>2. キャンプサイト等の維持管理 利用者の満足度を高めるためには場内の構造物やトイレ等を常にきれいな状態に保たなければならない。そのため、維持管理を細やかに実施する必要がある。</p>					

3. 時代に沿ったニーズへの対応

キャンプブームにより同業施設が多くオープンしており、このキャンプ場でしかできない体験を味わってもらう工夫が必要である。

4. アウトドアアクティビティのコンテンツ拡大

メンバーが様々なアウトドアアクティビティイベントを実施しているが、土日等の休日の開催がメインである。平日でも来訪者が楽しめるコンテンツの拡充が必要。

〈視察の感想〉

この事業を行うに当たっては、アウトドアを熟知している株式会社メンバーとの包括的連携協定を締結して行ったことが成功への第一歩だったと感じた。キャンプ場の指定管理も同社と行い運営面でもしっかりとした経営がなされています。

キャンプ場の利用者数も年々増加しており土日の利用は100%に近い実績である。メンバーの持っている100万人以上の「メンバークラブ会員」に対する定期的な会報等による五ヶ山クロスのPRが集客に大きな要素となっている。

現在の課題もしっかり踏まえており、今後の発展も大いに期待されるようです。

袖ヶ浦市にはオートキャンプ場が1施設あるだけです。都心に近く自然豊かな立地を備えていますが、調整区域という大きな縛りがあり施設を増やすことができない状況です。キャンプ需要は現在多く、袖ヶ浦の魅力を発揮できるようなアウトドア施設ができる環境作りに向けて取り組むことが必要と感じた。

【視察時写真】



